

目指す学校像	活気ある学校 1 確かな学力、豊かな心、健やかな体、豊かなかかわり合いをはぐくむ学校 2 安全・安心で、教育環境の整備・充実に取り組む学校 3 コミュニティ・スクールを活かし、家庭・地域・関係機関・関係団体と一体となって取り組む学校
重点目標	1 ICTを効果的に活用し、主体的・対話的で深い学びのための校内研修の充実と授業実践 2 不登校生徒の解消、個に応じた対応の充実、いじめ防止指導の徹底、生徒会活動、委員会活動の充実 3 学校公開の推進、CS(学校運営協議会)の充実、体験活動の充実、地域催事、ボランティア活動への参加 4 「学びを楽しみ、他者と協働し、挑戦し続ける生徒の育成」を軸にした授業実践及び校内研修の充実

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

年度		学 校 自 己 評 価			年 度 評 価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	
1	<p>【学力向上に関する取組】(現状)</p> <p>○全国学力・学習状況調査や市の学習状況調査では、国語、数学、社会で全国平均、市平均に近い結果である。理科は、平均より上位で概ねよい結果であった。</p> <p>○よい授業のアンケートでは、各因子で良好な結果が見られる。また、学年が上がるとアンケート結果が向上する傾向も見られた。</p> <p>○授業に積極的に参加する生徒が多い。</p> <p>○友達と協力することが楽しい生徒が多い。(課題)</p> <p>○全国学力・学習状況調査で、難しいことにあまり挑戦できない生徒が一部いること。</p> <p>○学校評価において、将来についての希望が十分持っていない生徒が一部いること。</p>	<p>「個別最適な学び」「協働的な学び」の実現に向けた情報端末の活用及び授業改善</p> <p>目標に向かって主体的に取り組む宮前中STEAMSTIMEの実践</p>	<p>①タブレット端末を効果的に活用した魅力ある授業の実践と公開。</p> <p>②タブレット端末を活用した公開授業を全教員が年1回以上実施する。(指導訪問、研究発表、ブラッシュアップ週間、年次研修等の機会)</p> <p>③ICTを効果的に活用するための校内研修を5回実施し、その中で研究発表を行い、研究成果を発信する。</p>	<p>①学ぶ意味や目的を持ち、達成感や成就感を持てる課題や振り返りの指導</p> <p>②他者と支え合い、互いの考えを認め合う、学び合う関係作り</p> <p>③課題を解決する方法を身に付け、挑戦する態度を育てる指導法</p>	<p>方策①、②について、6月28日の指導訪問、10月20日の研究発表、事前参観、ビデオ研修、初任者研修他全教員が1回～5回のタブレット端末を活用した授業公開を実施している。方策③の校内研修は、4月11日5月15日、8月25日、8月30日、10月20日の5回実施した。5回目は、研究発表会を行い、成果を披露した。発表を終え、成果と課題についてまとめた。</p> <p>方策①、②について、1学期のSTEAMSTIMEでは、昨年同様「新聞紙タワー」の作成を実施した。2学期は、プログラミング的思考を育む内容で実施し、「スクラッチ」や「マインクラフトEducation」のソフトを使い基本的な知識、技能を身につけた。教員93%、生徒84%が肯定的評価だった</p>	A	<p>学校評価アンケート他で、生徒の実態として、自分の将来に夢や目標を持っていない生徒が一部いる。また、自分で学習課題を決められない生徒が一部いることがわかった。そこで次年度は「未来を拓く力をはぐくむキャリア教育の充実」をテーマに「基礎的汎用的能力の育成を目指したキャリア教育の実践」について研究していく。</p> <p>3年生の評価アンケートで、8割以上の高評価だった。他校の実践情報をフェイリングし、担当が共有し次年度につながるように計画を作成する。より充実した内容のSTEAMSTIMEにしていく。</p>	<p>・設定した目標を生徒たちに知ってもらうことが第一。その上で、どのような活動をすべきか生徒に考えさせることが必要。</p> <p>・学ぶ目的を考えて、目的意識を持つようにする。</p> <p>・将来についての希望が明確に持てるように小・中9年間を見据えてキャリア教育を一層充実させていく。</p>
2	<p>【安心・安全に関する取組】(現状)</p> <p>○教育相談部を中心として、不登校傾向の生徒の相談・指導を組織的継続的に行うことができている。</p> <p>○日常的な教員の指導や生徒会活動などを通して「いじめを許さない環境づくり」ができている。</p> <p>(課題)</p> <p>○不登校傾向の生徒の教室復帰があまり進んでいない</p> <p>○新型コロナの影響で生徒会活動や委員会活動が少なくなった。</p>	<p>いじめを許さない学校づくり、いじめの未然防止、早期発見、早期対応の実践</p> <p>不登校生徒の教室復帰に向けた教育環境の整備並びに新たな不登校生徒を出さない教育相談体制の確立</p>	<p>①いじめ0を目指し、未然防止、早期発見、積極的な初期対応を適切に行う。</p> <p>②各種アンケートや生徒指導・教育相談活動を更に充実させる。</p> <p>③宮前中学校いじめ防止基本方針に基づいた指導を徹底する。</p>	<p>学校評価に係る生徒アンケートにおいて</p> <p>①「学校で命の大切さや社会のルールについて学んでいます」の肯定的評価95%以上②「わたしは、いじめを許さない、見過ごさないようにしています」の肯定的評価90%以上</p> <p>③同保護者アンケート項目同90%以上</p>	<p>方策①、②については、6月の「いじめ防止強化月間」の取組、日進北小と連携して「いじめ防止ブロック会議」や「心と生活のアンケート」「教育相談週間」での二者面談を通していじめの未然防止に努め、いじめ事案になる前段階での指導を徹底し現在までいじめ事案0が続いている。生徒は①97%、②97%、保護者は①96%、②77%が肯定的評価</p> <p>方策①、②については、不登校傾向にある生徒個々の状況に応じた対応を実施している。担任や学年職員、さわやか相談員らが生徒に対応し、学習室や相談室での自主学習や登校した際の対応、家庭訪問などにより指導・支援を行っている。体調が良いときは、教室に入ることができたり、行事に参加したりする生徒もいる。学校評価で肯定的評価①91%、②84%、③97%だった。</p>	B	<p>保護者アンケート「お子さんはいじめを許さない態度を身につけている」の肯定評価が77%で目標値90%を達成できなかった。次年度は、保護者の評価が良くなるようにいじめ防止の取組について積極的に発信して改善を図りたい。</p> <p>学校評価アンケートでは、3つの項目とも概ね良い評価であった。次年度は、Sora るーむも活用して不登校傾向の生徒の改善を図りたい。また、学校行事には参加できる生徒もいることから、行事を活用して不登校生徒の改善を促す。</p>	<p>・保護者アンケートの数値が低いのは、学校だけでなく様々な場での子供の姿を見て評価されているからではないか。また、中学生なので、家庭であまり話をしていないためではないか。学校での取り組みを保護者にもっとアピールしたほうがよい。</p> <p>・生徒の教師への信頼度を高める必要がある。親には本音が伝わる。教師の考え方やすれ違いはないか確認してほしい。</p> <p>・不登校生徒への対応でオンライン授業を望む。</p>
3	<p>【地域とともにある学校づくりに関する取組】(現状)</p> <p>○学校運営協議会を立ち上げ2年が経過し、「子どもたちにどのような力を身につけさせたいか」「学校、家庭、地域が一緒にできる取組」について熟議を行い、地域とともにある学校づくりに取り組んでいる。</p> <p>○新型コロナの影響が少なくなり、授業参観や学校行事の公開が進められている</p> <p>(課題)</p> <p>○地域人材の活用、地域資源の活用が少ない傾向にある。</p> <p>○地域催事がコロナ前の水準に戻ってきたが、教職員、生徒の地域催事への参加や地域貢献の方法についてできるだけ負担を少なくして実施するにはどうすればよいか。</p>	<p>授業参観や学級懇談会、学校行事や部活動等の公開を通じた学校公開の推進</p> <p>地域との連携を図り生徒の地域行事への参加を通じた地域貢献の推進</p>	<p>①授業参観、学級懇談会、学年保護者会、三者面談、進路説明会、スマホタブレット安全教室等保護者への学校公開の機会を増やす。</p> <p>②体育祭、合唱コンクール、文化部の活動発表など地域にも公開を行う場の設定をして地域とともにある学校づくりを進める。</p>	<p>①学校評価に係る教師アンケートで、「学校の行事予定や生徒の様子について、懇談会や二者面談、学年だよりや学校だよりなどにより、保護者との連携を図っている」の肯定的評価が85%以上となったか</p> <p>②同保護者アンケートで、肯定的評価が85%以上となったか</p>	<p>方策①については、4月の授業参観・学級懇談会に始まり、学期末の学校公開週間、学年保護者会、夏休み中の三者面談など学校公開を複数回実施している。今学期も12月に公開週間を実施する。②については、体育祭、合唱コンクールで全学年の保護者への公開を実施したが、地域への公開はできていない。学校評価肯定的評価①100%②97%だった。</p> <p>方策①については、生徒ボランティア募集に関するページを開設し、関係文書をダウンロードできるように整備した。②については、第1回学校運営協議会を受け、避難所運営訓練、宮前小青空教室、夏休み子ども公民館(内野公民館、日進公民館)、大宮日進七夕まつり、うちのフェスティバルでボランティア活動を実施した。学校評価肯定的評価100%</p>	A	<p>学校評価アンケートで、教師、保護者とも良い評価だった。3月末に吹奏楽部が定期演奏会を行う。その際、日進北小の児童とその保護者に公開する予定があり、次年度もできるところから学校公開に取り組みたい。</p> <p>今年度は、延べ259名がボランティアに参加し、学校運営協議会委員のアンケートで目標値を上回った。次年度は、地域のニーズを確認して進め、反省点や改善点を活かし更に良い形でボランティア活動ができるようにする。</p>	<p>・生徒がやらされているのではなく、自らの意思で参加している点が良い。自立心が向上。自分で進んでやる。</p> <p>・子どもたちが一生懸命やってくれてありがたい。今後も盛り上げていきたい。</p> <p>・高齢者は子どもたちとの交流を望んでいるので鉢植えボランティアは今後も続けてほしい。また、番場公園の花壇や自治会との交流もお願いしたい。</p>
4	<p>【教職員の資質向上に関する取組】(現状)</p> <p>○教員の授業力が高い。よい授業アンケート：4つの因子①17.4(市+0.6)②17.3(市+0.8)③16.9(市+1.3)④16.9(市+1.3)※R4.12</p> <p>○学校研究課題に組織的に取り組んでいる。(課題)</p> <p>○アンケート結果で個人差が大きい。</p> <p>○質の高い学びや深い学びに関する研修や取組が十分ではない。</p> <p>○保護者や地域はわかりやすい授業を望んでいる</p>	<p>授業研究日を設定し授業研究、教材研究、授業準備を行うとともに年間の校内研修を通じた資質の向上の実現</p>	<p>①授業研究日を活用し、教材研究を行うとともに、必要に応じて教科会や分掌会を行い授業力の向上を図る</p> <p>②研究主題に対して、授業でどのような取組をしたか自分の実践や他教員の授業の参観を受け、教科会で共有し良い手立てやワークシート、評価や成績などについて情報交換を行い資質の向上に取り組む</p>	<p>①全ての教員が、「ICTを効果的に活用した魅力ある授業」の実現を目指し日常的にICTを活用する状況になったか。</p> <p>②全ての教員が「個別最適な学び」や「協働的な学び」など「質の高い学び」や「深い学び」を実践することができたか。</p>	<p>方策①について、授業研究日として5月19日、6月26日、9月4日、10月16日、11月13日の5回で、教科会や分掌会を行った。部活動を中止し、5時間目終了後すぐに生徒を下校させ時間を確保することで内容を充実させることができた。方策②についても、授業研究日を活かし各自の資質向上に取り組んだ。良い授業のアンケートでは、4つの因子全てが市平均と比べ0.7～1.7上回った。数値で17.3～17.6と良い結果が出ていて、質の高い学びや深い学びにつながった</p>	A	<p>市のICT活用状況調査では、「ほぼ毎日、週3回以上使用」が98%だった。生徒が端末を駆使して意欲的に学習している。良い授業のアンケートでも良い結果が出ていて、職員の資質・能力の向上が図られた。次年度も客観的なデータで良い結果を出せるように研修に取り組む。</p>	<p>・学力が向上するわかりやすい授業を行ってほしい。</p> <p>・タブレットPCの活用方法として更に研修していく。</p>